

名称等	国指定史跡 興国寺城跡発掘調査現地説明会の開催 についての追加発表
実施日時	平成30年3月10日(土曜日) 13時30分～15時00分
場所	国指定史跡 興国寺城跡 発掘調査現場にて 三の丸臨時駐車場に集合(沼津市根古屋404付近)
担当	教育委員会事務局文化振興課 文化財管理係 直通 055-952-0844 (沼津市文化財センター、平日のみ)

3月6日(火)発表「国指定史跡 興国寺城跡発掘調査現地説明会の開催」について、発表後に判明した発掘調査成果について追加で報告します。

1 内容

今年度、興国寺城跡で実施している発掘調査において、北曲輪で構造の調査を行っていた堀が、「障子堀」と呼ばれる堀であることが新たに判明しました。その内容を現地説明会で公開します。

2 特徴

北曲輪の中央部分には、戦国時代の城の造り替えによって埋められた堀があることがわかっており、今年度はこの堀の構造を把握するために調査を行っていました。最新の調査の結果、堀の底に畝のような形状をしている地山の掘り残しが見つかり、「障子堀(畝堀)」と呼ばれる堀であることが判明しました。

障子堀とは関東地方を中心に戦国時代に見られる堀の通称で、堀の底に土手状の仕切りを造った堀のことです。この堀の機能としては、堀底での敵の移動を妨げたり、水を溜める機能があると言われています。今回興国寺城跡で見つかった障子堀は、堀の向きと直行するように畝状の土の高まりが認められる構造と考えられ、興国寺城跡では初めての発見となります。

興国寺城跡北曲輪で見つかった「障子堀」の畝状部分



(参考) 山中城跡 (三島市) の復元された障子堀

